

新型コロナウイルス感染拡大下での雑感



戸塚奈津子
論説委員
アジア開発銀行
中央・西アジア局
Principal Portfolio
Management Specialist

世界的な新型コロナウイルス感染症騒動の渦中でこれを執筆している。地震や洪水とは異なるが、これも災害の一つと言えよう。「私たちひ弱な現代人は、かりに危険に直面しても、それを感知する能力が劣って」おり、人間の営みが高度化するにつれ災害因が同じであっても被害が大きくなり、被災者のニーズも高度化し対策は高額化する、のだそうだ。1) 現在の日本の緊急事態宣言下の状況はその様相を呈している。都心の繁華街の人出は減ったものの、その郊外の公園やスーパーマーケットには危機感の無い家族連れであふれている。行政からの指示が無いとどうしたらよいかかわからないと行動を起こさず、政府や地方自治体の対策を非難し、経済的損失の補償を声高に求める。

強制でなく自粛によってウイルスを抑え込むという方針は、自国の国民と医療制度に対する信頼が無いと選択できない。さすが日本。私は心の中で誇らしく思っていた。しかし、人々の反応に現実を突きつけられた。強制ではないことがどれだけ貴重なことなのか、想像力を巡らせてよく考えて欲しかった。

多くの国、特に途上国は3月上旬頃から厳しい都市封鎖と外出規制を始めた。自国の脆弱な医療体制を知っているからである。私が住むフィリピンでも突然首都圏封鎖、外出禁止が命じられ、公共交通機関は全面停止、生活の基幹に関わる店以外は営業禁止になった。食料品の買い出しには1世帯1名のみでの外出が許可され、ジョギングや散歩も禁止。スーパーマーケットは入場規制を実施し、時には2-3時間かけて食料品を調達。あらゆる建物の入り口で検温が実施され、自宅に客を招くことも禁止となった。街では軍や警察が人々を監視し、半鎖国状態になった。突然在宅勤務となり、友人や同僚と会うことも出来なくなった。ある日突然それまでの日常生活が失われた。こんな生活を強要せずにウイルス感染を抑制することができるのならどんなに素晴らしいか。

日本の緊急事態宣言下の生活には自由度がある。国民が信頼されているのだ。強制ではなく自己判断による行動が許されているうちに、なぜ自ら正しい行動ができないのか。やはり防災対策が整備されて自然災害による被害を経験する頻度が減り、戦争や紛争も無い日本に住む人々は危険を感知する能力が劣ってしまっているのだろうか。それとも、自分さえよければ良い、という考え方が蔓延しているのか。今後の防災対

策を考える上での示唆があるように思う。

そして、今回特に不安に感じたのが、インターネットニュースのコメント欄にあふれる「海外から帰国すべきでない」という意見である。食料自給率37%、2) エネルギー自給率11.8%。3) 輸出入に経済と生活を依存する日本は、海外との人と物の動きを止めたら立ち行かなくなる。日本が世界有数の経済大国の地位を維持し、独立を保っていくことができているのは、諸外国に出向き、交渉し、働いている日本人が多数いるからである。海外渡航=気楽な海外旅行という発想しかできないのであれば、想像力と一般常識の欠如も甚だしい。そして、近年は業務目的の渡航先・赴任先はいわゆる途上国と言われる国々になることも多い。平常時でも抱える治安や医療体制への不安、非効率な業務、不便な生活、常識や民度の異なる外国人職員との関係。そこにこのウイルス騒動である。出勤できなくなり、医療は既に崩壊して治安は悪化。今後いつまで続くかわからない空港閉鎖の可能性に直面し、止むを得ず帰国を考えた時に、母国の人々から「帰ってくるな」と言われることがどれ程理不尽であるか。

これを読んでいる方々、特に若い方々にわかっていただきたい。人は同じ環境に身を置き続けると画一的なものの見方しかできなくなり、想像力が欠如するようになる。制度が整った国や組織に身を置き続けると、制度に従って行動するようになり、自分で考えることをしなくなる。日本のような成熟した豊かな社会では、自覚を持ち、努力をしないと判断力が身につけにくいのである。

土木に携わる者は単なる技術者であってはならないと思う。土木は社会をつくり動かす動力の一部である。技術以外の事にも興味を持ち、想像力と判断力を培って欲しい。私自身はかなり年齢を重ねてからその重要性に気付いた。もっと早く気づいていれば、人生の転機点でもう少し良い選択ができたかもしれない。この感染症騒動を契機に世界的な経済不況が始まり、一層厳しい時代に突入することになるであろう。どうか厳しい時代に負けない判断力、強さと能力を身につけて欲しい。

参考文献

- 1) 広瀬忠弘「人はなぜ逃げ遅れるのか—災害の心理学」(集英社新書)2015年
- 2) 農林水産省、平成30年カロリーベース食料自給率
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/attach/pdf/012-12.pdf
- 3) 経済産業省資源エネルギー庁、エネルギー需給実績(確報)、2018年値
https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/total_energy/pdf/stte_030.pdf